

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：住民に親まれる親水施設を目指して ～ウツベツ川の取り組み～		
水系/河川名：一級河川十勝川水系ウツベツ川	河川分類：都市河川	
河川の流域面積：16.5	整備計画流量：110m ³ /s	セグメント：1
事業：河川改修	事業開始年度	平成26年度
目標設定：定性的	段階	D(実施・施工時)
課題・目的(主な)：瀬・淵の保全・再生・創出、水辺へのアクセス改善		
工法(主な)：護岸整備、階段工の整備、管理用道路の整備		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

<背景>

ウツベツ川は帯広市街地を流れる河川であり、中流部は緑地公園や動物園が隣接し、市民の環境教育や憩いの場として利用されている。昭和28年から平成5年にかけて改修が行われたが近年の集中豪雨により頻繁に水位上昇が発生していたことから、治水計画の見直しを行い。平成26年度から50年確率規模の降雨により発生しうる洪水流量を安全に流下させる事を目的とした掘削・護岸工事を行っている。

<課題>

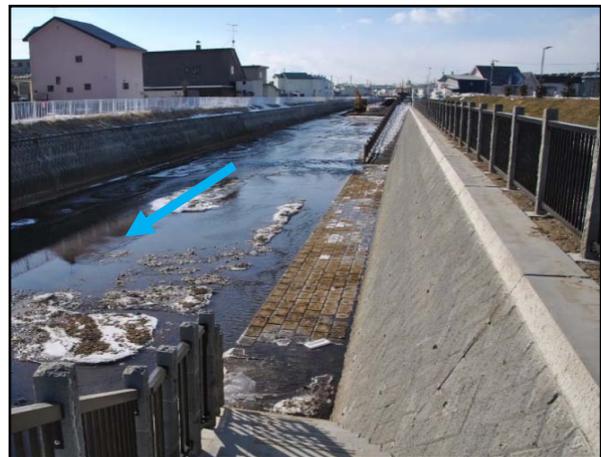
市街地であり限られた用地内での改修事業のため護岸は両岸とも積みブロックとなり河川へのアクセスがしにくい状況となっている。単調となる河道内についてはバープエや、河床材の置き換えなどを施工し、瀬・淵が形成され魚類の遡上、生息環境の改善と多様な植生の早期回復に努めている。

今回、河川敷地に余裕があり、背後地に移転開業予定であった病院と調整し親水護岸を設置することとした。これにより、河川へのアクセスが可能となったが、この施設を誰がどのように利用するか、維持管理はどのようにしていくのか等の課題が残った。

<目標>

利用者が求める施設、親まれる施設となるよう整備・維持し、近隣住民にいつまでも利用してもらえる親水施設を目指す。

(子供達が川に近づき魚の遡上、水生生物の観察が出来る所、また、病院入院している方や地域住民の方が散策し、季節を感じる事の出来る憩いの場となる事を目指す。)



親水護岸完成直後(H30.3)

取り組み内容・対策例(1/2)

1. 市民団体と協働して親水護岸箇所を整備・維持していくこととした。
親水護岸の背後地に移転した帯広厚生病院やその院内保育園の要望を聞き、整備可能な内容を整理し現地に施工した。

<整備内容>

- ・園児が川に降りて遊べるように欲しいとの要望
→ステップ部に土間コンクリート、その横に根固めブロックを設置、同様に飛び石代わりのブロックを設置した。
- ・園児たちに参加してもらえる作業を考案
→ステップ部の「おはじき装飾」を実施した。

- ・人が休憩できるような椅子や物を置ける場所が欲しいとの要望
→河積阻害や洪水による流失の恐れが無い粒径を検討し、人が座れる大きさのφ40cmの石を設置した。

<維持内容>

- ・周辺の草刈、ゴミ拾いを実施した。



園児たちの作業(おはじき)の様子(R1.2)



石設置後の園児たちの様子(R2.7)



石設置後の即席生物観察会(R2.7)

取り組み内容・対策例(2/2)

<今後の整備・維持>

今年の10月20日には下記の整備を実施した。

・四季が感じられる様な植物があるとよとの要望
→帯広市の在来種であり、実のなる木(低木)のヤマグワとマユミの植樹。

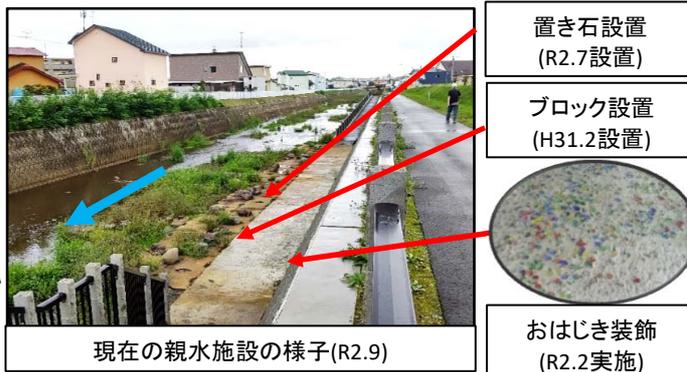
・入院患者のリハビリや子供たちの散歩時に目標、目印となる看板の設置について要望
→転落防止柵に流域で見られる動物の写真を用いた看板を作成し設置。

その後・・・

流れにさらなる変化を与えるために河床への礫の投入、設置したブロックの移設、低水路の改良を11月下旬に行う予定。

<施設の活用>

・園児たちに川に興味を持ってもらえるよう水生生物観察会を実施する。



現在の親水施設の様子(R2.9)



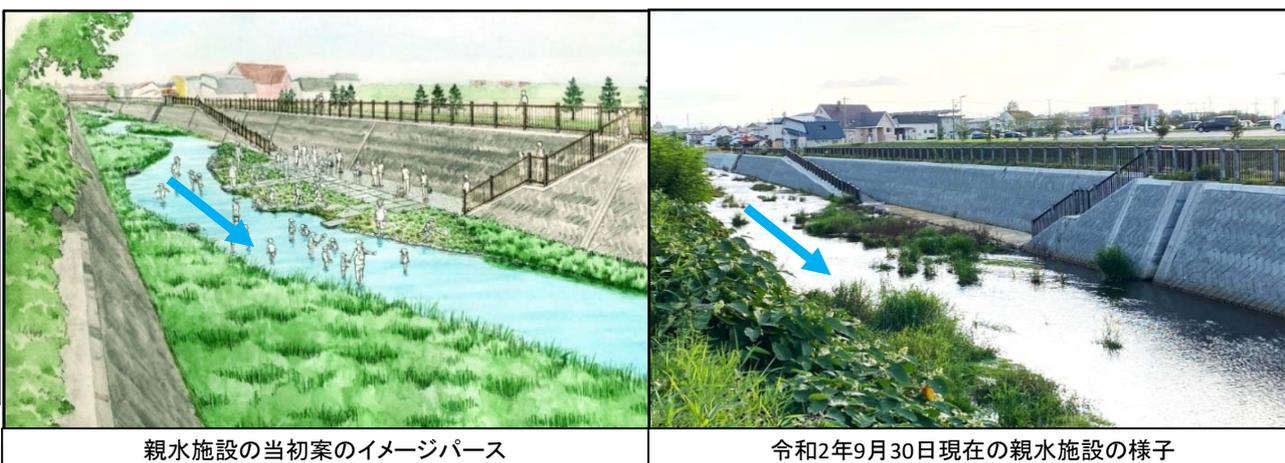
看板を設置する園児たち(R2.10)

植樹の様相(R2.10)

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<今後の対応方針>

- ・今までの親水施設は河川管理者が設置するが、その後の維持管理が十分でなかったり、親水施設を利用する市民・住民の意見を反映できていないものが多かった。
- ・そこで、ウツベツ川では市民団体と河川管理者で協議を行い、親水施設について協働して整備・維持を行っていくことで合意した。
- ・市民団体は親水施設周辺の草刈り等や隣接している厚生病院や近隣住民から意見を聞き取り、その意見を取り入れた整備内容の提案その整備実施時に一緒に作業を行う。
- ・帯広建設管理部は提案があった整備案が法律的・技術的に実行可能か検討し、市民団体と協働して整備・維持を行う。
- ・これによって親水施設やその周辺エリアの改善や改良が終わること無く、継続していく。イメージ図の進化・更新が行われ、いつまでも利用してもらえる親水施設となる。



親水施設の当初案のイメージパース

令和2年9月30日現在の親水施設の様子

備考

都市空間における貴重な水辺空間を通して、『河川＝危ない』場所では無く安全に配慮し付き合う事で普段は楽しい場所であることを理解してもらおう。

親水施設で整備や行事を行い子供たちに参加してもらおうことで川に興味や親しみを感じてもらい、大人となった時に近隣住民や市民団体の方として都市河川であるウツベツ川で協働して整備・維持を行ったり、その内容について意見を言ってもらえるような関係を目指している。

子供達に伝えることで河川に興味を持ちこの業界に飛び込んで来てもらえる事を期待する。

問い合わせ先 北海道 十勝総合振興局 帯広建設管理部 事業課

電話番号 (0155)27-8729